

別記様式

議 事 録

会議の名称	第1回 岩倉市公共施設再配置計画検討委員会
開催日時	平成30年4月27日(金) 10時00分から12時00分まで
開催場所	市役所7階 第1委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：秀島委員長、木本副委員長、大野委員、伊藤委員、池山委員、木村委員、水越委員、平松委員、井上委員 欠席委員：増田委員 説明者：建設部長、都市整備課長、学校教育課長、子育て支援課長、都市整備課営繕グループ長及び係、学校教育課学校教育グループ長 コンサルタント：中央コンサルタンツ
会議の議題	(1) 学校施設長寿命化計画の報告について (2) 公立保育園適正配置方針のあり方の検討状況について (3) スケジュールについて (4) 施設類型ごとの再配置方針の確認について (5) 先進自治体の視察について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
会議に提出された資料の名称	資料1 岩倉市学校施設長寿命化計画 資料2 岩倉市公立保育園の適正配置方針の策定の進捗状況について 資料3 公共施設再配置計画策定スケジュール 資料4 施設ごとの再配置方針について
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	6人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

建設部長よりあいさつがされた。

2 議事

(1) 学校施設長寿命化計画の報告について

資料1「岩倉市学校施設長寿命化計画」を基に事務局より説明。

意見、質問等は特になし。

(2) 公立保育園適正配置方針のあり方の検討状況について

資料2「岩倉市公立保育園の適正配置方針の策定の進捗状況について」を基に事務局より説明

委員：平成30年度内に民間保育所の関係者と調整する予定か。

事務局：委員として出席して頂いている。6月～7月中に検討を終え、本委員会に報告する予定である。

委員：今後は民間保育所ではなく、認定保育園という名称になっていくのか。

事務局：名称は犬山市でも公立、私立ともに認定こども園と呼んでいる。

委員：ベストミックスとは何をもって理想とするのか。

事務局：建物だけではなく、保育の質についても私立の良さを公立に取り入れていければ良いと考えている。

委員：保育園の選択肢が増えることが理想なのか。

事務局：施設を統廃合すると選択肢は減ることになる。大きすぎず、小さすぎずバランスをとっていく必要がある。

委員：保育園毎の独自の個性、自由度についてはどう考えているか。

事務局：すぐに答えは出せないが、公立保育園については、同じ質を確保していくことが特色であると考えている。

委員：維持管理コスト、先生の意識改革、施設までの距離、駐車場の有無といった相反するものを受け入れていくためには、過去の縛りにあまり捉われないようにすることが重要である。

事務局：建物だけではなく、保育の質についても議論する場を設けていきたいと考えている。

委員：アンケート結果について、園までの距離だけではなく、送迎の手段によっても負担の程度が変わるため、そういった観点で集計してもよいのではないか。

事務局：アンケートのクロス集計は実施している。保育園を建ててきた時代とは変わり、8割が車の利用者となっている。

委員長：再配置を議論するためには、質の議論も合わせて検討しないと話が進まないと考えられる。また、基本的な考え方について、中長期なのか当面の話なのかがよく分からない。さらに、統合することが良いのか悪いのかといった市の方針を示すべきであると考えている。なお、意識格差を解消することは、私立側の方針にも関係するので、市の方針として記載するのはふさわしくないと考えられる。

委員：特色のある施設を廃止してまで意識格差を解消するのは不自然である。園を選択するのは親子なので、色々な特色があったほうが良いと考えられる。

事務局：公立と私立の保育に対する意識は統一したいが、保育の内容までを変えたいとは考えていない。

(3) スケジュールについて

資料3「公共施設再配置計画策定スケジュール」を基に事務局より説明

委員：モデルケースについて、保育園の統廃合も検討して頂きたいと考えている。メリット、デメリットを見てみたい。

事務局：平成29年度にモデルケースを7案提示したが、これまでの委員会やワークショップ等での意見を踏まえ、方向性を変更したいと考えている。次回の委員会で対象とするモデルケースを報告したいと考えている。

委員：市民説明会やパブコメの開催案内については、もっと広く周知してほしい。市のホームページ以外でも、駅でビラを配るなどの工夫が必要である。

委員：学校施設は、保育園と同様に、再配置計画とは切り離して検討していくのか。スケジュールの中に学校施設を入れ、一緒に進行管理していく必要がある。

事務局：本計画は、分野横断的な複合化等を含めた幅の広い計画であるため、学校や保育園の方針を受けて作成していく。学校や保育園の計画を作成して終わりではなく、本計画の中で発展させていきたいと考えている。

委員長：保育会の適正配置方針は、報告書として学校施設長寿命化計画のようにとりまとめるのか。

事務局：学校のように立派な計画書になるかはわからないが、市の方針として表に出していきたいと考えている。

(4) 施設類型ごとの再配置方針の確認について

資料4「施設ごとの再配置方針について」を基に事務局より説明

副委員長：本施設毎の方針で、公共施設等総合管理計画の目標に対する達成率は把握しているのか。

事務局：縮減目標との整合性はまだ確認していない。集会施設についてもただ譲渡するだけではなく、地元負担が生じる可能性があるかなど、今後の事業の進捗に合わせて把握していく必要がある。また、公営住宅について、全国的な取組み事例が増えているように、本市のモデルケースとして加えたいと考えている。希望の家は、これまでの市民の意見の中で、存続を希望する意見が比較的多かったため、モデルケースで踏み込んで検討していきたいと考えている。

委員：集会施設の方針については、航空の騒音対策として市が建てた施設であるため、譲渡といった理屈が通りにくい。建て替えの際に無視すると譲渡につい

て区長に納得してもらえない。単純に「譲渡」という表現では問題がある。住民との結び付きが強い施設であるため、無償か有償かなど今後のフォローも意識しながら、検討を進めて頂きたい。

事務局：区の役員へのヒアリングでは、譲渡を市の方針として出されれば、聞かざるを得ないという意見が多かった。譲渡にあたっては、必要最小限の規模で更新した後に譲渡するなど、方法については今後の検討課題であることを記載している。

委員長：「譲渡」もモデルケースに入れてはどうか。

事務局：今後、譲渡を含めてモデルケースの対象を検討していく。次回の6月の委員会においても、本施設類型に関する意見をもらえれば、モデルケースの検討資料として活用していく

委員：次回の委員会では、保育園の内容を含め、全体での目標の達成状況を教えてほしい。

委員長：目標の達成状況は、厳しめに評価しておいた方がよい。

(5) 先進自治体の視察について

6月5日開催予定の先進自治体の視察について事務局より連絡。